

# 河景における光とかげと彩り



時刻変化、季節変化による風景の彩りは私たちに情緒を与えてくれる

川の風景の彩りは、私たち見る者の心を和ませてくれます。ゆらゆらと揺れ、街の景色を映し出す水面の趣き、青い空や水面をバックに色鮮やかに映える菜の花、すべてを赤く染あげて殺那的な世界を表現する夕刻の景、etc。

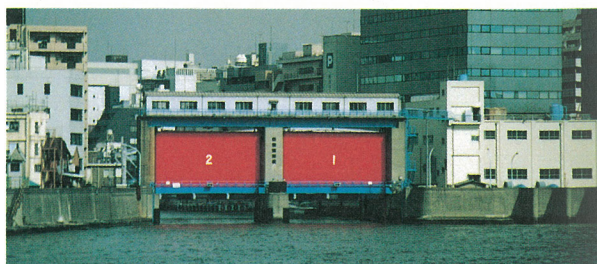
色彩の表現方法としては、マンセル表色法がよく使われており、次の3つの属性で表示されます。

- ①色相…赤とか黄、青という色みのことです。
- ②明度…色の明るさのことで、真白は明度10、真黒は明度0です。
- ③彩度…色のあざやかさの属性で、黒、灰色、白などの無彩色は彩度0、色が付くにしたがって彩度値は上がります。

河景の主役である水面(俯角10度)は彩度2以下、護岸などに使われる自然石・コンクリートなどのほとんども2以下に分布しています。河川の周辺景の構造物でも彩度が高いものは、浮き上がった存在となり嫌われてしまいます。



河景の主役となる水面や石材などの彩度(あざやかさ)は、非常に低い。



広い面に着色する場合には、面の広がりによる彩度・明度の上昇を考慮してデザインしましょう。

デザインの要素としては、形、色、素材感(テクスチャー)の3つであり、どの要因が欠けても良いデザインとはなりません。橋梁や水門などの巨大構造物は、河景の主演となりうるもので、デザインの3要素のバランスがとれており、かつ周辺景との調和がとれていれば基本的に色彩の制限はありません。ただし、広い面に色をつける場合には、面の広がりによる色彩変化が生じ、色見本よりも見た目の明度・彩度がともに1~3程度上昇してしまうため、けばけばしい色彩とならないように十分注意しましょう(面積効果)。

自然石は個々の形が不均一で、表面に凹凸が有り質感が

与えられています。また、各々の石の色は少しずつ異なっていますし、ひとつの石を見ても微妙に色彩の変化があります。

河川において美しく感じられるのは、樹木や草花などの自然によるアクセントです。絵心がある方はよくおわかりになっていると思いますが、一本の樹木でも同色に見える葉はありません。葉の裏表や、陰影、成長度などによって一枚一枚が微妙な色彩のバリエーションを有しているために、やわらかい質感が表現されているのです。

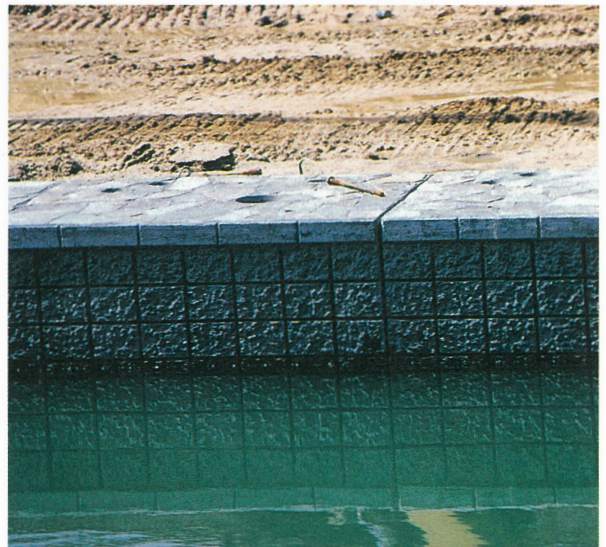
逆に嫌われるコンクリート護岸の要因は、同じ形状、パ



彩度が高く、少し不自然ではあるが、形状、パターン、テクスチャー、目地などのデザインに配慮したコンクリート護岸。



自然石の彩度は低く、形、色、テクスチャーが、不均一にバラついている。



目地、かさ石、表面の凸凹など、陰影をうまくデザインに取り囲みコンクリートに着色(灰緑系、明度5、彩度1)した護岸(都市河川研究室デザイン)

ターンが連続し、テクスチャーがのっぺらで、色彩にバラツキがないことです。しかし基本的にはコンクリートのデザインは自由で、無限の可能性を秘めている景観材料とも言えます。最近、意匠を凝らしたコンクリート護岸を見かけますが、中途半端なデザインはかえって嫌われてしまうものです。

護岸表面のテクスチャーや目地、かさ石(コーピング)などによる陰影をうまくデザインに取り込めば、無理の無い色彩変化を得ることが出来ます。もし、色を付けたい場合には、場の特性にもよりますが、彩度1程度に抑え、微妙な色合いを出す程度にした方が良いでしょう。

経年変化に対する考え方は二通りあります。ひとつは設計当初の色彩を維持管理していくものと、もうひとつは経

年による色彩変化を許す考え方です。巨大構造物のように景観の主役となりうるものに関しては、色彩をそのまま維持管理する考え方がありますが、一般の河川構造物に関しては経年変化によって風景に馴染んでくることを前提に考えてもよいのです。経年変化によって彩度が落ちるからといって、わざわざ最初から派手な色にすることはありません。

都市景観や道路景観と同様に、都市の河川においても派手な広告・看板類は好まれません。今までは目立つことだけが看板の役割とされてきましたが、時代の風潮としても風景全体の調和を考えることが重要となってきました。これからは、看板を自己を主張するだけの存在ではなく、風景のパーツとしてのデザイン、特に彩度と取り付け方を考慮したものにしていただきたいと思います。



明度を低くしても彩度が高いと河景から浮き上がった存在となります。



地域の個性表現としてモノトーンを強調しモダンなイメージで配色したもの



やわらかく、あたたかなイメージで配色したもの



樹木や草花は河景に彩りを与え、私たちの心を和ませてくれます。

地域の個性を表現したいときに景観条例を施行して、色彩範囲を規定する方法も実施されていますが、河川景観の場合、水面の無彩色に近い色がベースとなっているため、周辺景の低彩度の構造物でも風景全体に彩りを与えてくれ

ます。

最後になりますが、皆さんもここで述べた色彩の基本原理を積極的に利用し、心安らぐ河景創りをしていただければ幸いです。